

愚仙
書報
月系
卷



特49
854

明治
45. 6. 21
内交

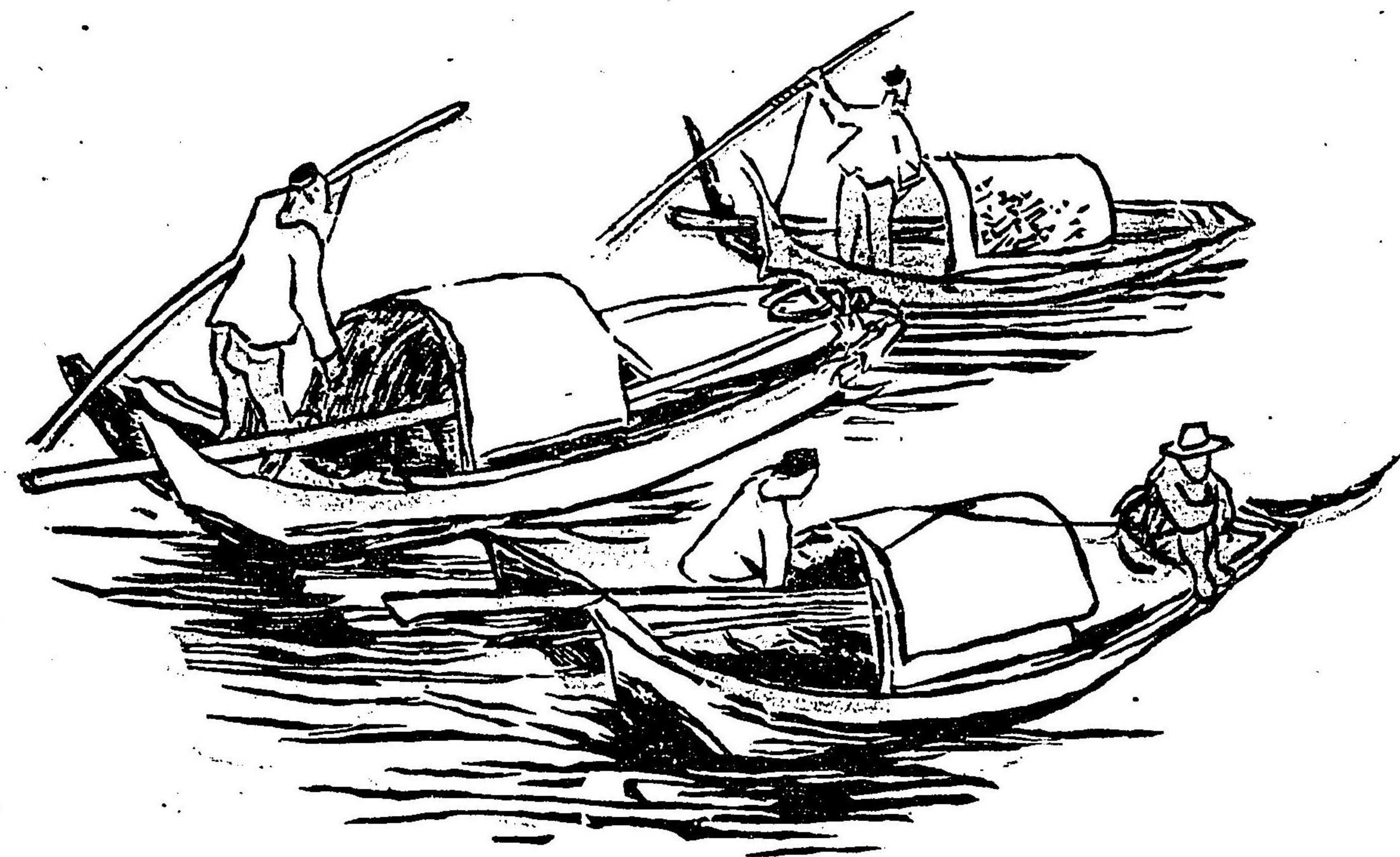
目次

蘇士運河其一	一
蘇士運河其二	二
古倫母のウロク舟	三
古倫母の石炭舟	四
上海の舳板	五
上海	六
古倫母其一	七
古倫母其二	八
シヨホール	九
香港	十
蘇士	十一
蘇士運河	十二
上海所見	十三
上海の河太郎	十四
上海の新公園	十五

はしがき

此書の前書題は人物風景とりくりにあり
纏めて一巻の畫帖となすは、見るものゝ
都合よけれ共、版工其他の都合に依りて
人物と風景を分ちたるは大方に謝すると
ころなり、元此の畫報は大阪朝日に公に
せられ、大に好評を博せるものにして、
其の續編として見るべきもの、頃日の紙
上にあり、畫伯の歐行中上海より蘇西に
至る迄の風景は擧げて此の一巻にあり、
編者は多少美術がゝりたる繪を嗜むの餘
り、古新聞に於ける繪畫の屑籠に捨てら
るゝを、片つばしから保存し、後世に貽
す便にもと考へ、有興味にして新しきも
のを、撰索したるが是れ、畫伯の畫風を
傷けざれば幸甚なり

編者しるす



上海の舳板



蘇

士

其
一

船板とは
 我が國の浮舟なり
 日蔽らに
 アンペラのもあり
 又ペンキ塗のもあり
 たほむね
 船体を魚に看做して
 魚眼を彩れり
 港内數萬隻
 殆んど
 水面を蔽ふ
 船
 山に登るとは
 之れ
 船板の
 謂乎

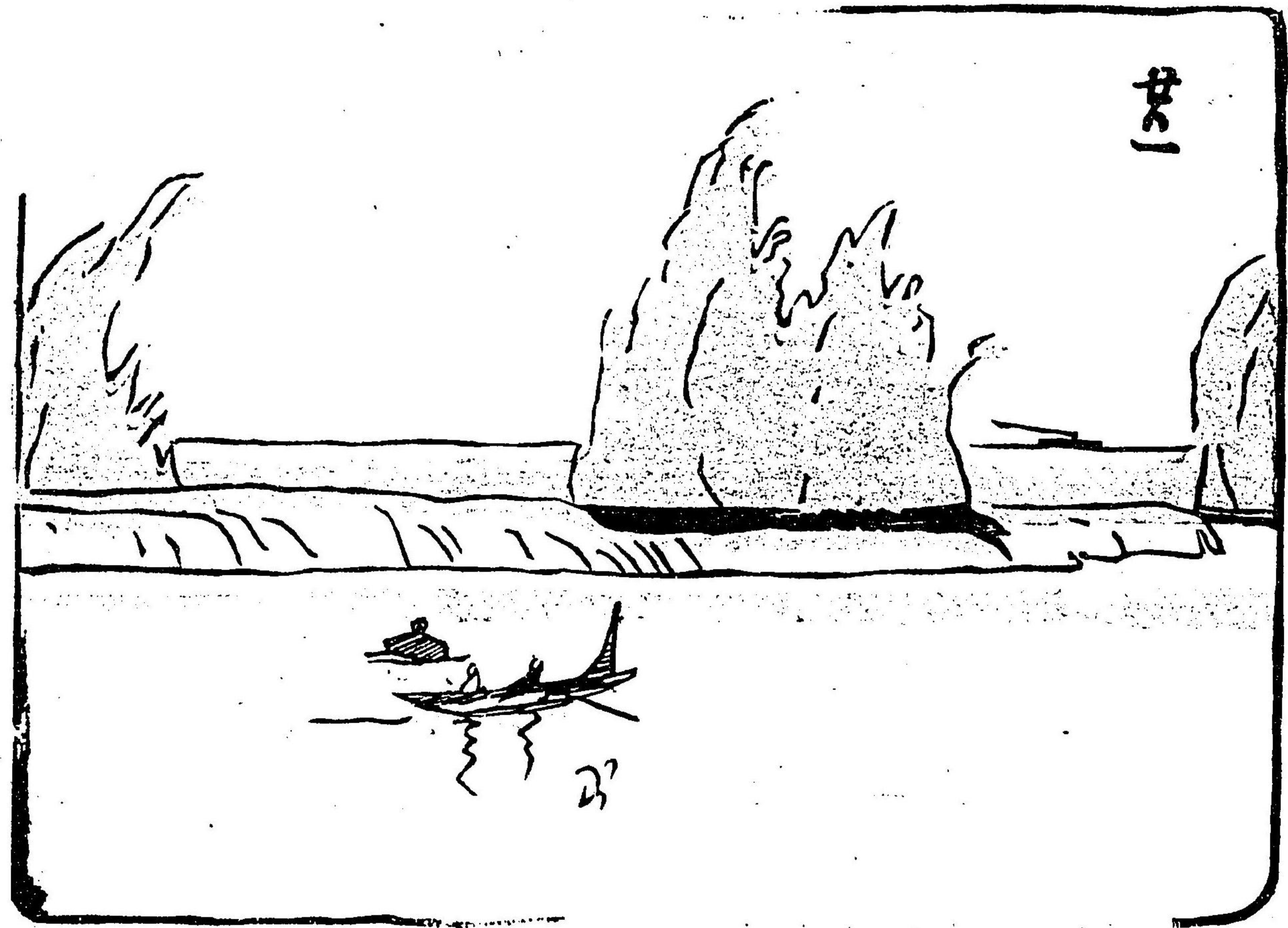
香 港



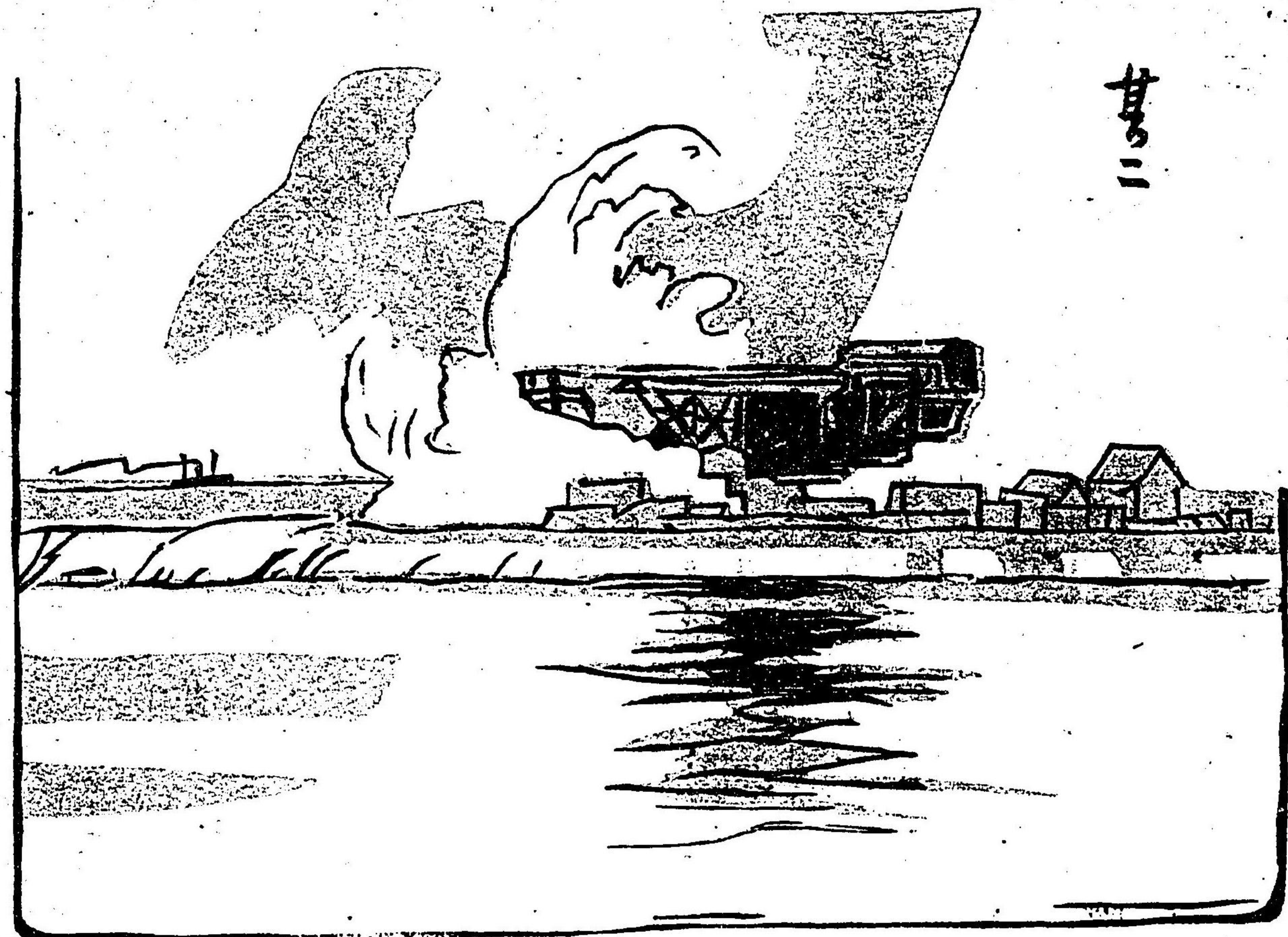
浪風のアラビヤ海を
十四日間揺られくつて
三千餘りの海程をやつとこさと
蘇士に着いたのが八月七日の午前十時なり
二時間の停船で
音に名高き運河に入るや
郵船會社の支拂ふ運河税が
一船三萬圓乃至五萬圓とは
嘘の様な眞なり
運河の長さは九十哩
幅は十間足らず
義經毛乃に非ざるも
少し身の經きものならんには
亞細亞から亞弗利加へ
飛び越す事
易々たるのみ

市はマツチ箱を積み重ねた様だが
 後の山は 面白い景色を爲して居る
 有名なケーブルカーの外
 籠でも登れる
 上には ビークホテルとて
 立派な宿屋もある
 此の遊山場にふさはしからぬ
 兵隊も居る
 人を見たら 泥棒と思へ
 好い景色を見たら
 要塞と思へ
 うっかり鉛筆は出せぬ
 迂濶にレンズも向けられぬ
 繪かきと寫眞屋の 落とし穴である
 去年同胞の書かき先生
 しく尻つて 二箇月の禁錮とは 大痛事
 美人局に逢つた様なもの
 此處は 尤も殿しい所だが
 眼に映じた以上
 仕方がない 覺書きに一寸

古倫母 其一



廿一



古倫母 其二

其二

われ

古倫母の波止場に於て

初めて

怒濤天を衝くの壯觀を見たり

如何に

天氣のよき日も

常に此の高さの波あり

されば

彼南を離れては

古倫母まで二週間

揺れ通しに

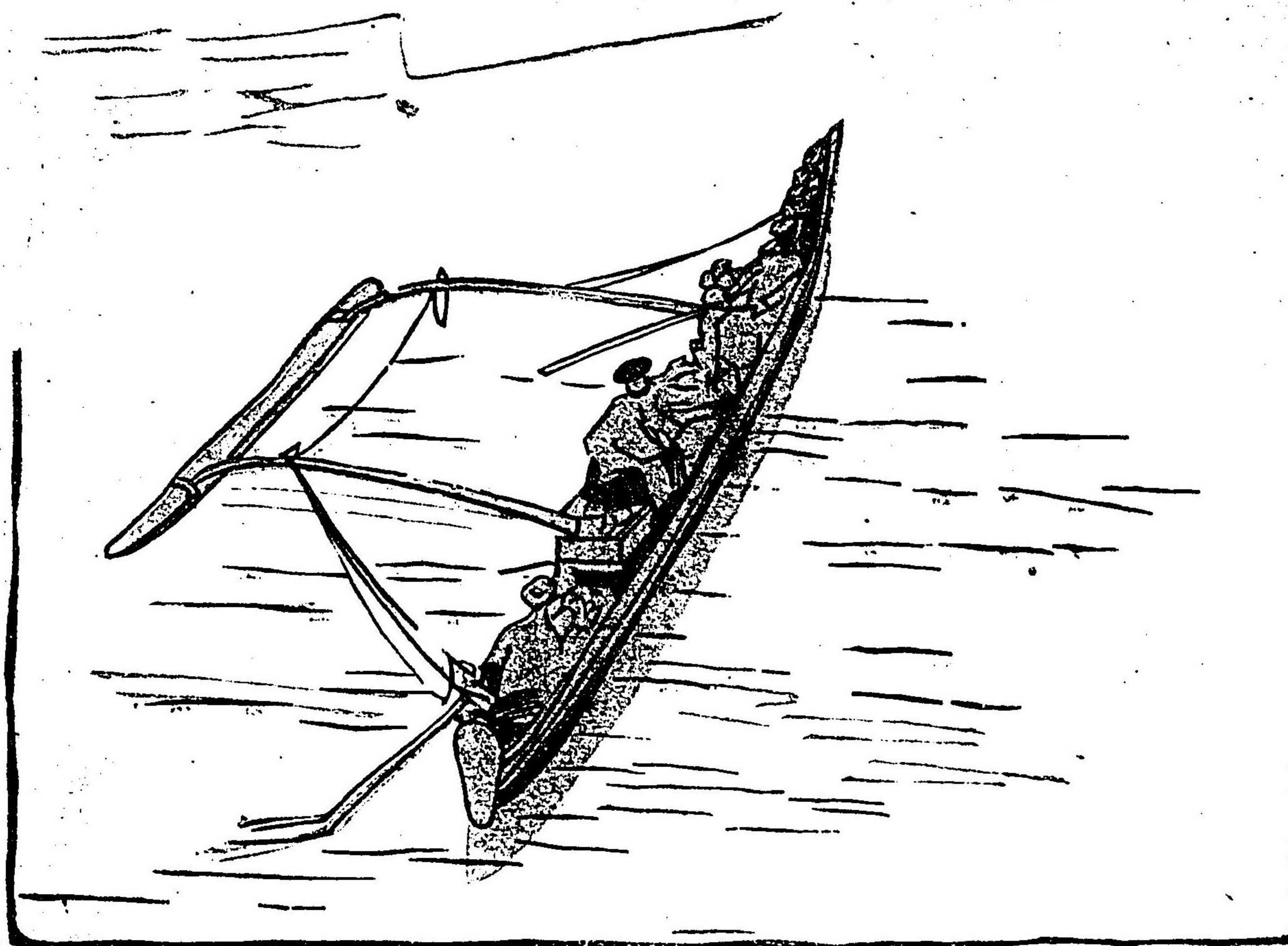
大概の人は

参つて了ふなり



古倫母 其三

上陸して
 十數町を行けば
 ビクトリヤガーデン
 又は釋迦寺とて
 菩提樹の繁茂せる寺あり
 此の邊乞食多く
 穢くしてうるさし
 此の地支那人を見ずして
 印度人のみなり
 市場近き所には
 いろ／＼の羅紗を纏へる男女
 打ち集ひたる頗る無意味なり
 我が國の婦女子に見せなば
 氣絶すべしは
 少々
 大袈裟かも知れず



古倫母 其四

これは石炭船なり
 杓子のやうな
 掘にて漕くさま外に類なし
 船中に寶石類
 菩提樹の珠數
 繪葉書等
 買りに來り
 うるさくて堪らず
 うかと寶石を買ふべからず
 緑日の植木屋同然
 買はぬ氣で
 買ふべし



ジヨホール

ひつくり覆らぬ用心が
してあるところは
如何にも太古式なり
三人の黒ん坊が
打ち乗りバト、
マングステン梨
又は煙草などを賣り歩く處
大阪のうろく船に同じ
奇抜なる構造の舟
滑稽なる舟
顛覆の憂ひなくば
世界を股にかけ
出稼ぎに行くも
妙ならずや



上海の河太郎

ジョホールは

馬來半島南端の一角にあつ

新嘉坡のウツドランドと

海上僅に二町を隔てて相對す

此の間汽車あり連絡船あり

是れでも立派な獨立國で

王宮 寺院 公園賭博場

市場などありて賑へり

夏は涼しく

新嘉坡より避暑に出掛けるもの多し

ホテルに名物のライスカレーあり

中々うまし

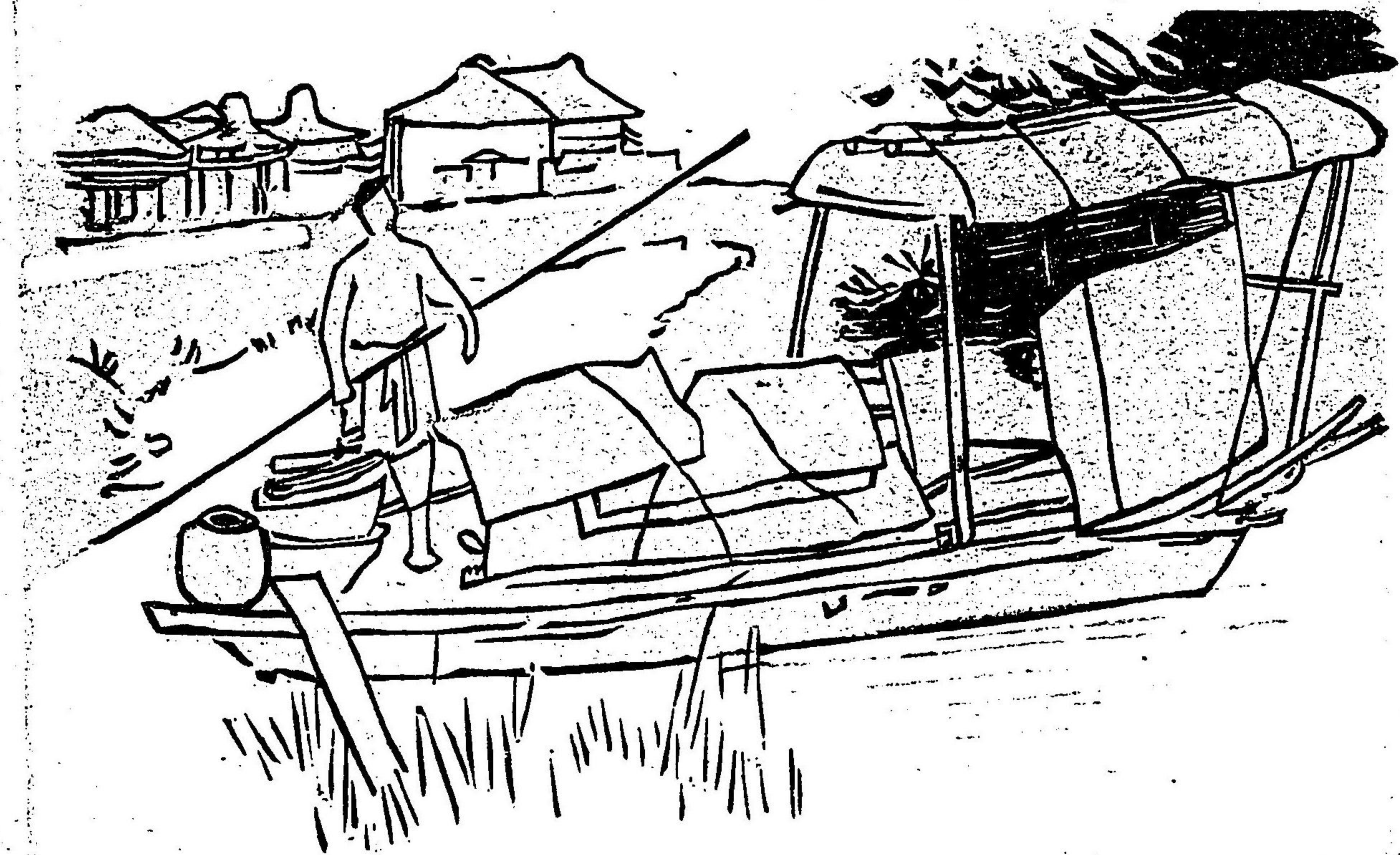
上海香港新嘉坡には

我が大阪高商出身者多く

到る處歓迎を受け

且便利を

得たるは嬉し



上、海

一家を乗せたる
不恰好なる平たき船は
朝早くより
漕ぎ出で、
往來繁き河口に来る
妻は櫓を
母は綱を操る
子供は舷に戯る
頗る天下太平なり
阿爺と壯夫は
五六間もあらん
竿頭に
金綱のやうなるを
舷につけて
河心浚ふ
所謂我が大阪の
河太郎の類か

僅に

市街に遠ざかれば

この小河あり

其處は

流石に

昔し寂びて

漁舟の趣きも

全くの

あんべら式

漁具一切も

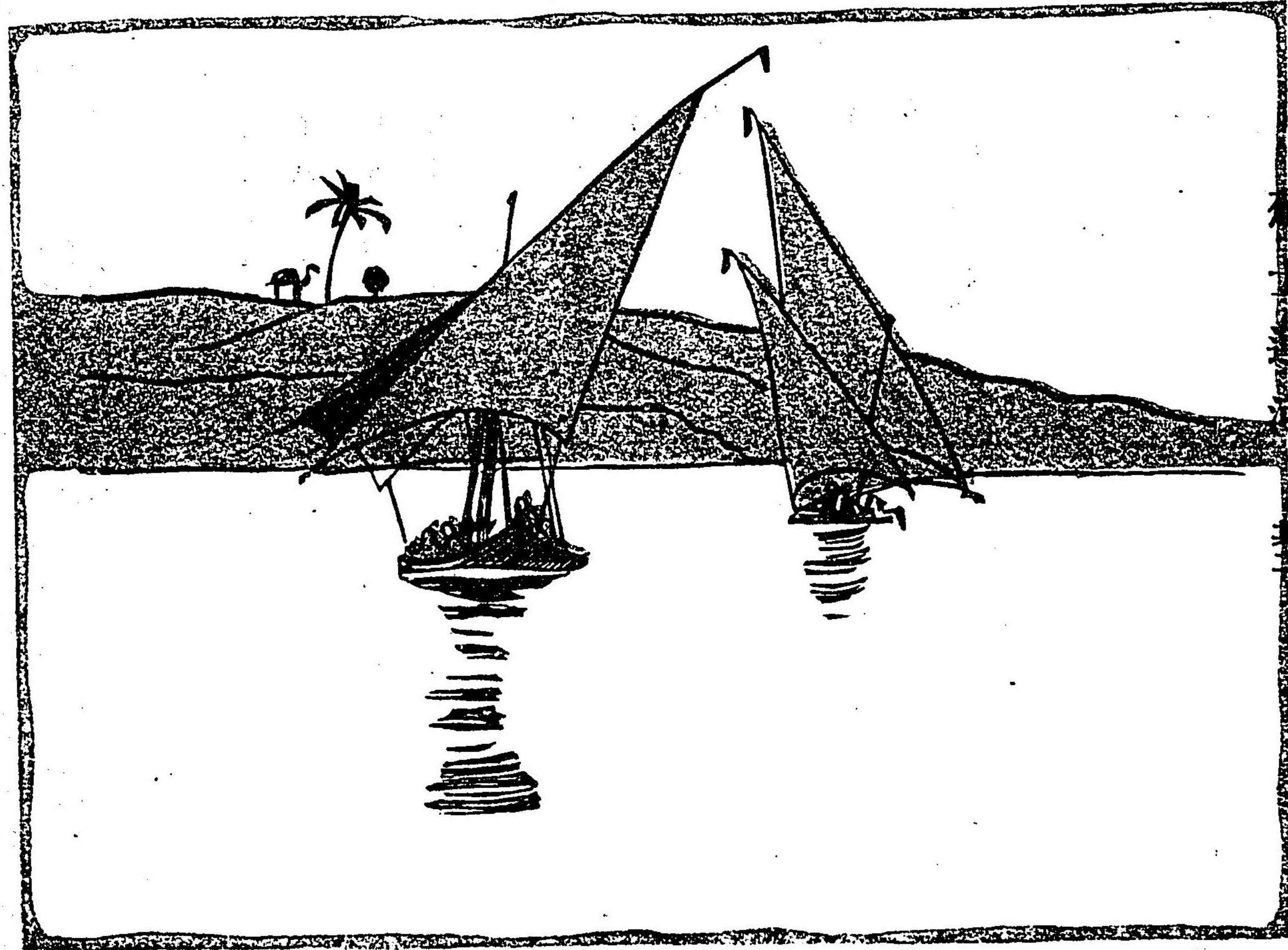
古風を帯びて

何んとなく

面白し



蘇士運河 其一

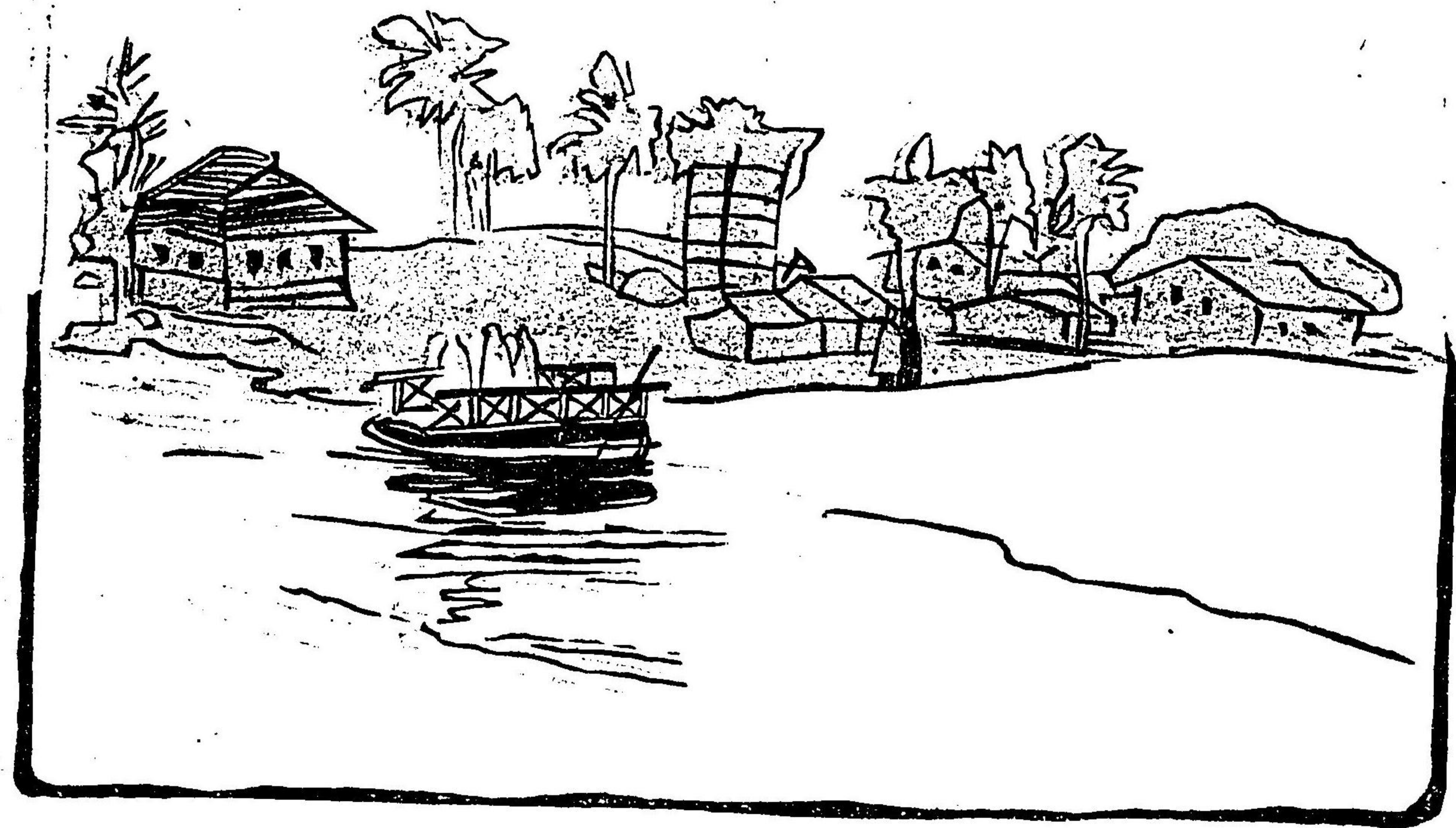


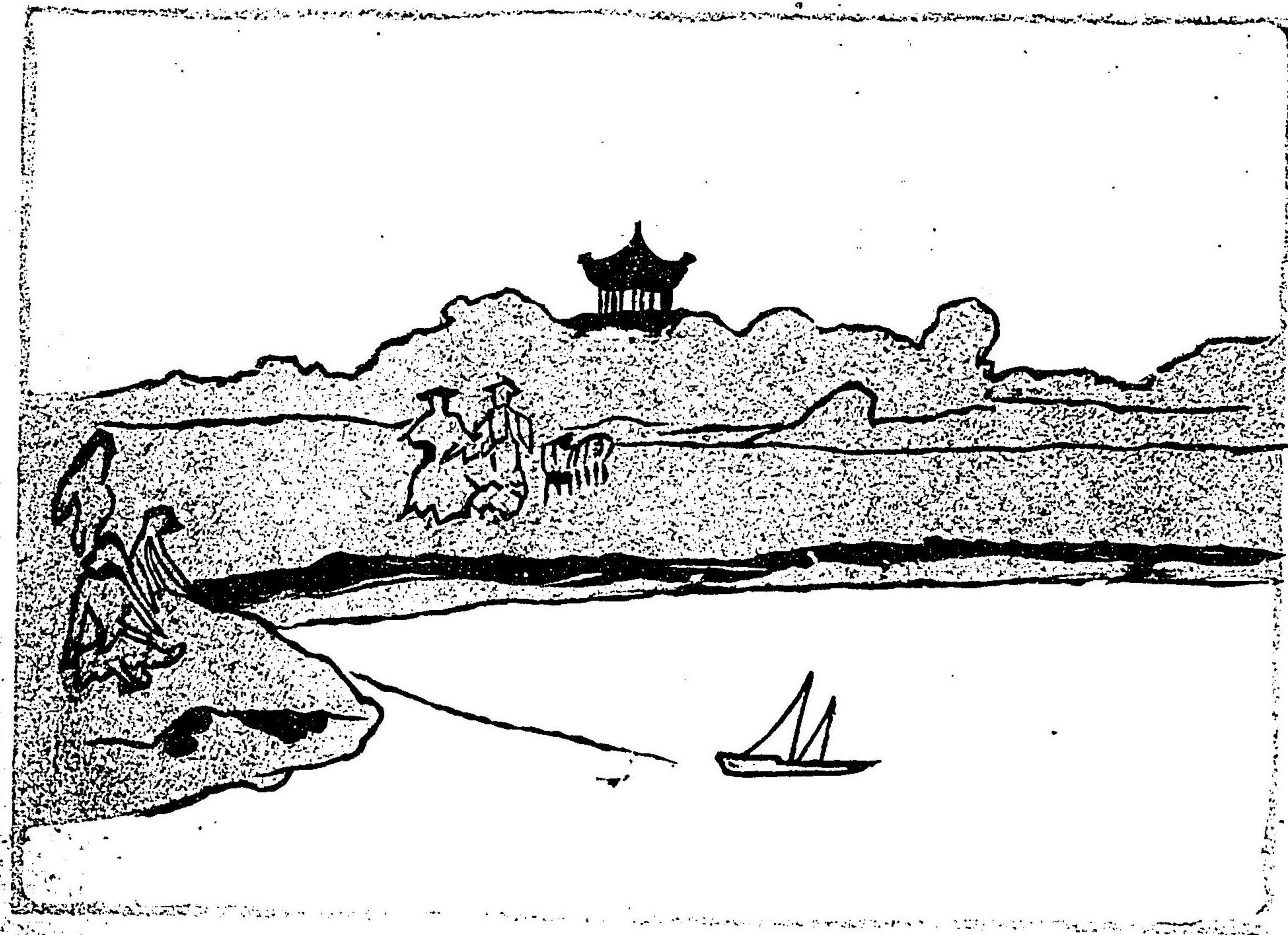
蘇士運河

眩暈せんばかりの炎天と
沙漠の極熱世界の異ん中へ
従容迫らず盆山の人形然たる駱駝と
そして埃及人
彼等は神經を有する
動物であるか

二湖を通じたる運河を
正面より見たらんに
恰も團子を串刺にしたるが如し
而して湖は團子にして
運河は其の串を見るべく
此の湖邊を過ぐれば
鳥の翼を延したる如く
帆を上げて
巧に船を操縦す
背景には入道雲と
沙漠を置く
エジプト式の繪畫乎

蘇士運河 其三





上海の新公園

運河を半ば以上

過ぎたらん頃

左には亞弗利加のナイル河を望み

右には亞細亞のカンタラを望む

カンタラは蕃村なり

椰子の幹より黄昏れ行くところ

炊煙漲る

沙漠の月の紫の霞を出て、

天地一刷

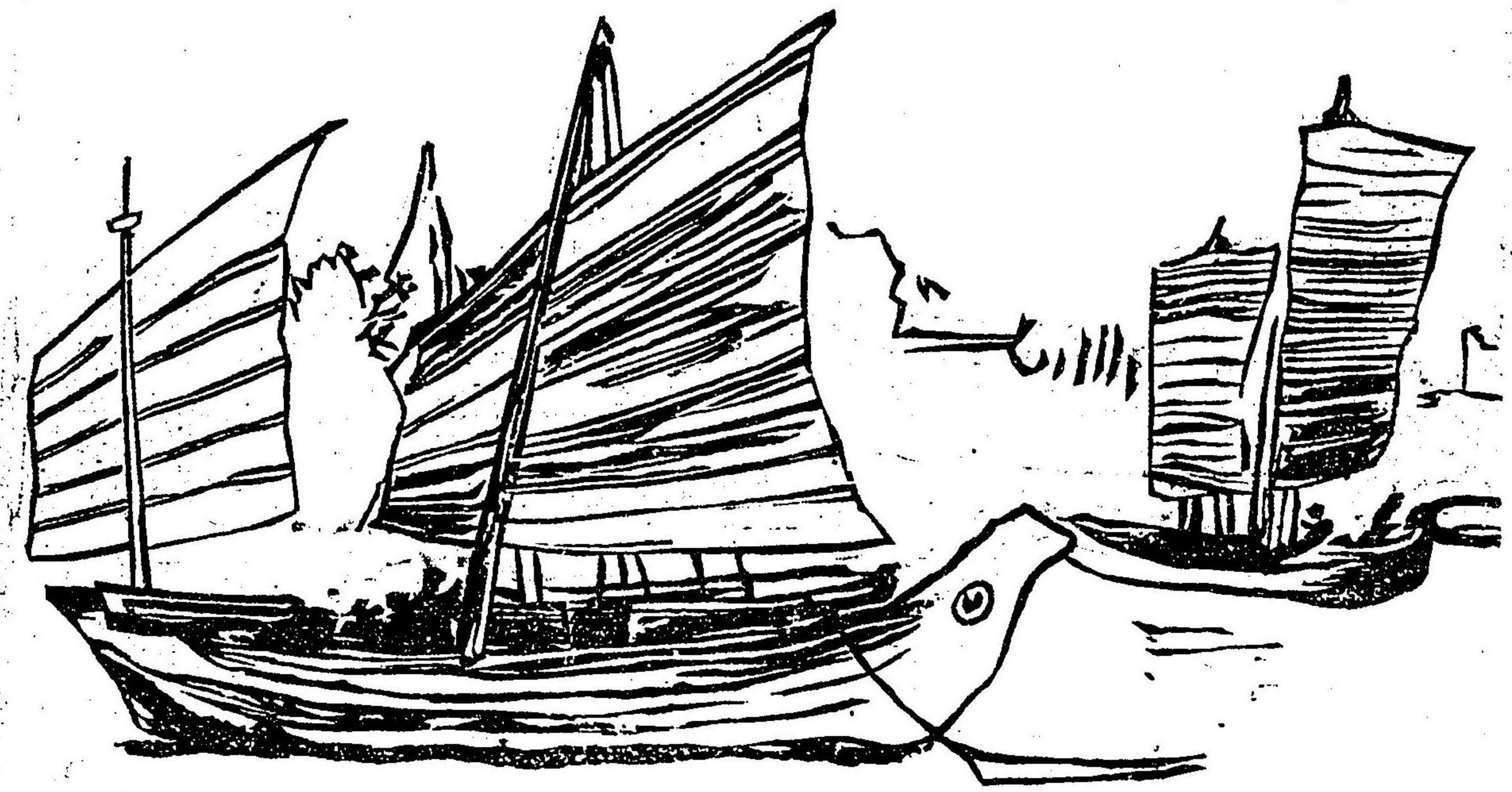
薄紅を彩れる好箇の畫幅なり

二三のた娘

粧ひを凝らして

水邊に涼を納る

又なく趣あり



上海所見

のんびりと
餘裕のあるところが
氣に入りたり
此の繪は其の一部分を
寫せるもの
日比谷公園式の
せゝこましき
設計とは
固より
較べ物に
ならず

255
536

九州	廣島	岡山	神戶	大阪	東京
友田	山陽	日進	盛文	東京	東京
金文堂	友田	富山	福井	鳥取	名古屋
	奈良	山中	日進	興文	中京
	木原	田原	館	堂	堂
					松江
					積慶
					堂
					四國
					文榮
					堂
					灣臺
					新高
					堂
					朝鮮
					日韓
					大阪
					屋
					日本
					堂

有文館圖書特約大販賣店

不許複製

發行所

有文館

京通市富小路通錦上ル高宮町

編輯者 有文館出版部

京都市下京區富小路通錦上ル高宮町

發行者 高田茂之助

京都市上京區御幸町通二條上邊摩町

印刷者 白木勉

京都市上京區御幸町通火川下

印刷所 平安舖印刷所

明治四十五年五月十二日印刷
明治四十五年五月十五日發行

此の船と
岸の屋根を見て
ハ、アもろこしに來たなど
感ずるは
初航の日本人には
誰しもなるべし
されど
詩韻を取り出して
此の景を
一句ものせんには
綠水清流などは
此の地に
見られぬ熟字なり
つますく事
あるべし

愚仙
下卷

人おまじ

近刊

書題の目次○上海の花賣男○主人の樂音○海上生活○香港の花市場○新嘉坡のマレイ芝居○黒人のガイド○上海の人力車○上海の鯧鮓屋○上海の宿引○上海の星宿殿○上海の小車○上海の巡査 (定價 上巻に同じ)

繪本

世界百珍

近刊

和装中判五冊
定價 未定

世界の珍を百種蒐めたるものにして珍人あり珍機あり珍景あり珍獸あり珍魚あり繪書を説明し説明を繪書にし珍の珍たる珍を上覧に供するも亦珍提供とは云はむ

人物の巻 上下貳冊 五月發行

世界一の大男と小男○奈翁に似たる役者○伊太利騎兵の曲馬○西洋の精神寫真○獨逸の電車學校○世界最大の人像○支那婦人の足○印度乞食○手提經便ボート○佛蘭西の決闘○米國の新築圖書館○回々教徒の團體のお叩頭○巴里新流行の女袴○世界最初の人像寫真○西藏の假面○百億萬圓の顔○西洋の砂書○指紋法の効用○美人即白骨○ボーイスカウト○英國の船中水泳場○乃伊の行列(縫紐女の北極旅行)○犬喰人種と犬市○女兵の弱點○自轉車の曲藝○壽命の縮まる職業○回々教徒の苦行○世界一の大紙齋○大學生の決戦○ピアノの曲彈(御釋迦の足の裏)○グキクトリア河畔の真夜中○ガンス河の御祓○瑞西の射撃演習○米國の參政權運動○ベスト退治祈禱の犧牲○珍食家○英帝戴冠式の什寶○四百萬圓の冠 (以上目次)

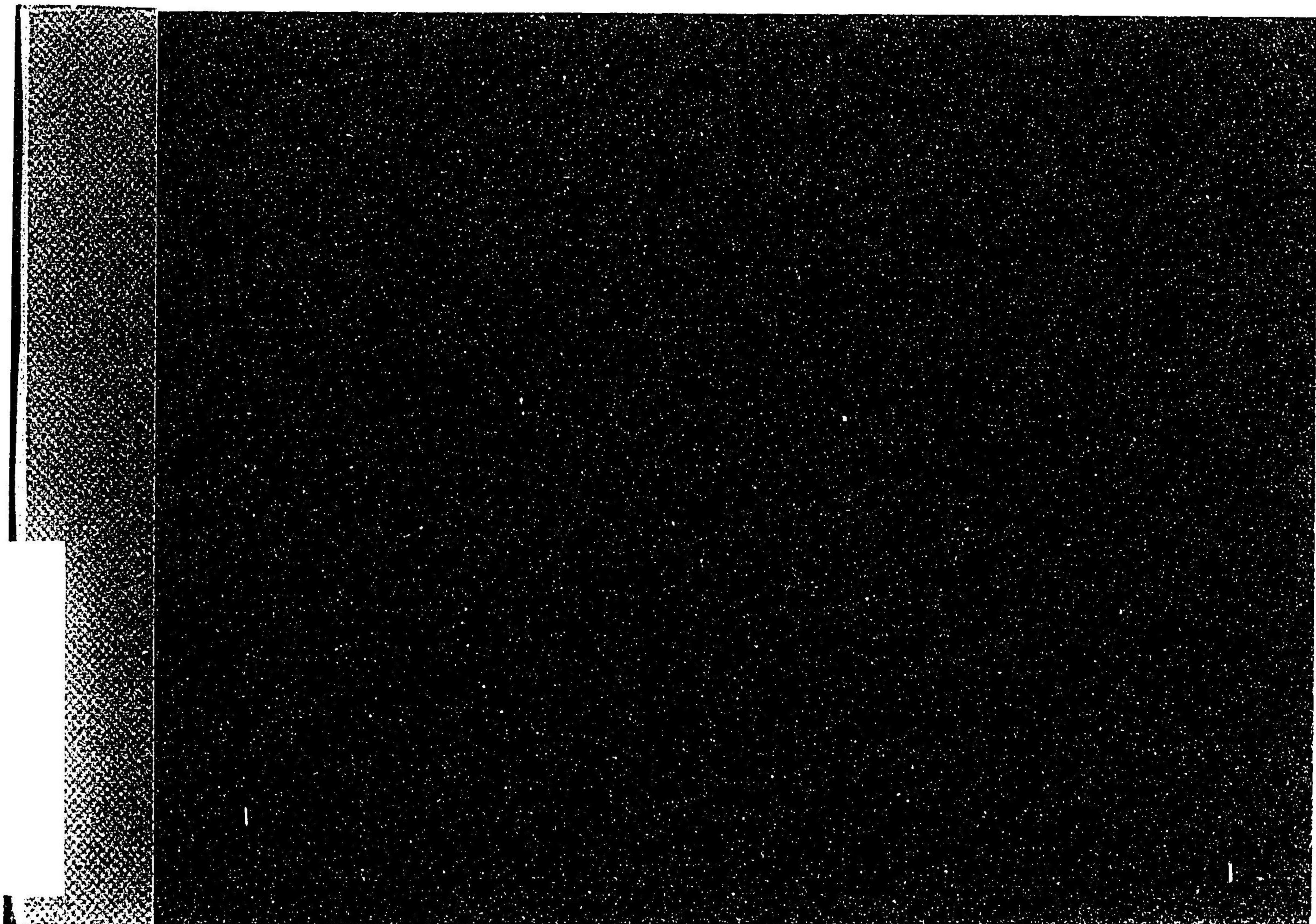
風景の巻 全 壹冊 六月發行

動物の巻 全 壹冊 七月發行

機械の巻 全 壹冊 八月發行

珍書は總て精巧なる木版に附し説明を活版とし和装仕立を以て江湖に見ゆ





愚仙 風景の巻
画報

国立国会図書館

特49
854

026369-000-0

特49-854

風景(愚仙画報)

有文館出版部/編

M45

ADD-0020

